

研究テーマ

運動する楽しさや喜びを味わうとともに、
主体的に体力づくりに取り組む大川っ子の育成

全校生徒数	13名(男子8名 女子5名)		
全クラス数	3	教職員数	9
運動部活動数		運動部活動参加率	

取組時の課題と目的

1 取組時の課題

本校は、一校一運動である「一輪車」の取組を通して、朝の時間や休み時間等を中心に、教科外体育を積極的に推進している。

しかし、本校の子供は、休み時間や休日等進んで体力づくりに取り組めなかったり、体力・運動能力調査の結果等より、運動に対して苦手意識を持ち、運動に対して消極的な様子が見られたりするなど、運動する喜びや楽しさを十分に感じることができていないという実態がある。

そこで、教科体育における指導法の改善や、教科外体育のより一層の充実化を図り、運動が好きな子供の育成に取り組むとともに、子供の体力向上を図っていききたいと考え、本主題を設定した。

2 取組の目的

- (1) 教科体育の充実に向けた工夫・改善
- (2) 教科外体育における体力づくりに向けた取組
- (3) 家庭・地域との連携における工夫

取組の内容

1 教科体育における取組

- (1) 授業改善に向けた取組
- (2) 授業力向上に向けた取組

2 教科外体育における取組

- (1) 教科外体育の「体力づくり」に関する年間計画の工夫・改善
- (2) 一校一運動を通じた体力向上の取組
- (3) 「チャレンジかごしま」への参加を通じた体力向上の取組
- (4) 体力テスト(年2回)の効果的活用のための工夫

3 家庭・地域との連携

- (1) 学校保健委員会との連携
- (2) 各種たよりや掲示物の工夫
- (3) 地域との連携

●工夫したこと

- ① 教科体育における学習ルール・安全指導の在り方について共通理解が図られつつある。
- ② 学習過程や場の設定について共通理解・共通実践が

図られている。

- ③ 研究授業(一人一回以上)に基づいた授業実践、及び授業研究を通じた仮説の検証が進められている。
- ④ 一校一運動である「一輪車」を充実させるため、朝の活動や、業間・放課後の時間の見直しを図っている。
- ⑤ 1回目の体力テストの課題を解決するために、校内に体育コーナーを新設し、運動の日常化を図っている。
- ⑥ 運動の日常化並びに体力づくりの視点から、「一家庭一運動」に取り組み、学校保健委員会と連動して家庭との連携を図っている。
- ⑦ 地域スポーツ人材を20時間活用し、地域と連携して子供の体力向上を図っている。
- ⑧ 研究推進委員会の立ち上げにより、円滑に研修を推進し、公開に向けた計画を立て、計画に則り、各担当職員で取組の計画及び実践が図られている。

取組の成果

- ① 教科体育における指導過程や、場の設定等、指導における職員間の共通理解が図られ、共通実践につなげることができた。
- ② 一校一運動である「一輪車」の取組において、4月当初は全く一輪車に乗ることができなかつた子供が、12月の学習発表会において、難しい集団演技ができるようになった。
- ③ 運動能力調査結果を活用しながらPDCAサイクルに基づく指導方法改善を行うことで、子供一人一人の課題を解決し、運動能力や運動に対する意識の向上につなげることができた。また、生活チェック週間の調査を実施することで、子供たちが家庭で運動に取り組む時間が増え、運動の日常化が図られつつある。

今後の課題

- ① 本校は宇宙留学制度を実施しており、毎年約半数の子供が入れ替わるため、それに伴って毎年実態が大きく変化する。個別の経年変化だけでなく、学校の実態を一年単位で検証し、取組の充実を図っていく必要がある。
- ② PDCAサイクルに基づいた研究授業を充実させ、教科体育をより一層充実させていく必要がある。
- ③ 一家庭一運動の家庭での取組状況は、家庭によって差がある。今後啓発を充実させたり、学校保健委員会と連携したりして、更に活性化を図っていく。